

厚生労働科学研究費補助金
新型インフルエンザ等
新興・再興感染症研究事業

新型インフルエンザの大流行に 備えた訓練に関する研究

(H20- 新興 - 一般 -008)

平成 22 年度 総括研究報告書

研究代表者 原口義座

① トリアージタグ付フォルパシドパネミック NO. _____

日時曜Date: / /2011, : _____

氏名name _____

性sex _____, 年齢age _____, etc. _____

連絡先または電話番号or Address _____

START 方式を基本として補足条項を追加
(Pandemic想定)DriveThroughVersion兼用

② タグ記載(開始⇒)③へ続く

③ トリアージ結果	
1回目	2回目
(時刻)	(時刻)
(黒)	(黒)
(赤)	(赤)
(黄)	(黄)
(緑)	(緑)
(汚染)	(汚染)
(施行治療)	(施行治療)
(施行治療)	(施行治療)
可能時④記載へ	
サイン Triage Officer _____	

記載・施行手順は以下

①から記載

②トリアージ・右

③を記載

可能時④記載

④・補足条項 (1)NBC
有 汚染 不明 無
(2)flu or infection
有 汚染 不明 無
・その他
修正事項・時刻等()

・関係者名・施設(Facility):
・搬送者・車(Transportation...)
・トリアージ実施者・チーム名(Triage Team:
・Etc.

記載・施行手順

①を記載

②トリアージ

③を記載

記載・施行手順

①を記載

②トリアージ

③を記載

詳細版

文部科学省 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金事業

目 次

新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究

はじめに	1
------------	---

パート I 研究主任者報告書 原口義座

(1) 総括研究報告書新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究	5
原口 義座	
(2) 施行研究概要 研究主任者 原口 義座	7
(3) 厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・ 再興感染症研究事業研究発表会 「新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究」 原口義座発表資料 平成 23 年 1 月 31 日 (月) 国立感染症研究所	9
(4) 「医院をモデルにパンデミック時の患者対応及び事業継続対応訓練」	17
原口 義座、細坪信二	

パート II 研究分担者の記録から

はじめに 研究主任者から 原口 義座	25
(1) 地域における保健活動の視点から	27
研究分担者 川田 諭一 茨城県古河保健所長	
(2) パンデミック時の医学生への教育のありかたと 救命センターの対応に関する研究	51
研究分担者 横田 裕行 日本医科大学大学院侵襲生体管理学(救急医学)教授 研究協力者 秋山 健一 日本医科大学医療管理学教室 助教	
(3) 新型インフルエンザ流行時における大学の対応に関する研究 ～シミュレーターを用いた学校閉鎖措置効果の検証～	57
研究分担者 白井 淳資 研究協力者 岩佐 保弘	

(4) 1. 神戸市における N1H1pdm 流行から見た特徴の見直し	
2. 内科医院における市民の啓蒙のあり方の研究	97
研究分担者 陰下 敏昭 陰下内科	
研究協力者 川田 諭一	
研究協力団体 神戸市灘区医師会、神戸市灘薬剤師会	
(5) 看護部門の視点からのパンデミック対策のあり方の検討	127
研究分担者 星野 恵美子	
研究協力者 後関 義之、鈴木泰江、星野 智子	
① 通勤途上における新型インフルエンザ対応訓練報告—その 1 鈴木 泰江	129
② 通勤途上における新型インフルエンザ対応訓練報告—その 2 後関 義之	139
③ 手指衛生の重要性 後関 義之	145
④ NICUでのMRSAアウトブレイクに伴った監視培養結果について 後関 義之	155
・付録 スタンド型手洗いチェッカー B L B	
⑤ 手指衛生について振り返ろう！～吸引・おむつ交換 編～ 星野 智子	167
⑥ 成田国際空港における NBC テロ対策合同訓練結果	
後関 義之、鈴木 泰江、星野 恵美子	175
終わりにあたって.....	181
付録・添付資料（別添）	
① 厚生労働科学研究費補助金事業実績報告書 抜粋	
② DVD 動画記録 1)：「新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究」	
(1) 通勤途中における対応訓練（平成 22 年 11 月 11 日・京王電鉄鉄道教習所）	
(2) 航空機内での機内検疫実施訓練（平成 22 年 12 月 17 日・関西国際空港）	
(3) 医院・診療所における対応訓練（平成 23 年 3 月 11 日・六日町市）	
③ DVD 動画記録 2)：白井淳資	
④ 原口義座：腹部救急疾患とリスクマネジメント：災害医療を中心に 抜粋	
（第 47 回日本腹部救急医学会総会平成 23 年 8 月博多）	183
索引.....	巻末

●はじめに 研究主任者 原口義座

本研究の平成 22 年度の活動を中心に研究分担者のご研究も補足して、概要を報告する。
その経緯の説明に加えて、適宜「考え方等」を述べます。

[はじめのはじめに]

平成 23 年 3 月 11 日(金)に発生した東北沖大地震・東日本大震災は、いろいろな面から、わが国、世界的にも大きな傷跡を残しました。被災された広域の方々には、慰めの言葉をかけることも困難を感じるほど、私たちも心を痛めております。

その強い影響を、研究主任者としても、また研究分担者・協力者も活動に巻き込まれました。

更に、その後も現場での災害医療援助の活動に、かわりあってきたこと、また本研究を今後の復興に活かしたい(特に厳冬をむかえるこれからを想定して)などの理由で、報告書の作成を見直したため、完成が遅れましたことを、深くお詫びいたします。

[詳細経緯]

本研究班としても、最後のまとめをかねた大々的な(?)雪中での訓練・研究会を、3月11日(金曜)に新潟県六日町市で、開催しておりました。

その真最中に大地震が発生しております。その際には、スカイプによる情報伝達訓練中でした。中途での中断となりました。

直後より、交通手段の障害も発生し、更に加えて、同日夜間(未明)にも、長野県北部・新潟県でも震度6弱～5強の地震が発生し、六日町市にも強く及んだことでもありました。

添付した動画とも関連しますが、記録を見て下さい。(24頁参照)

その後、研究分担者・班員・研究協力者は、当方も含めて、東北地方中心に災害復旧にあたっておりました。さて話を本論に戻します。

[研究概要から]

平成 22 年度の研究内容としては、前年度のインフルエンザパンデミック、これは幸いなことに弱毒ではありましたが、ここでの経験・反省をもとに、多面的に施行いたしました。大きく二つの面に分けられると思います。

一つには、具体的にどのようなことが有用か、ということをし、もう一つは、将来のパンデミックの発生を危惧して、これからをどうとらえるかという二つの面からのアプローチであります。

前者は、医療側としては、当然重要でもありますが、問題点としては、目先を重視した面が強いかもいえず、しばしば臨床部門が陥る自己満足のリスクがあります。

後者は、中・長期的にみる視点であります。

しばしば「それが、どう役立つのか、もっとすぐ役立つ内容でなければ・・・」というような、足を引っ張る、知的レベルが低い発言がよくなされてきていることは、問題だろうと思っております。

今回の大震災でも疑問が提示知れている「日本 DMAT」の活動方針などからは「目先の功を焦る・・・」様な印象を強く受けております。

当方としては、リスク管理の重要性を含めて、広い視野、長期間での視点、多面的な対応方針を重視して研究を進めたつもりです。

「日本 DMAT」への疑問も含めて、平成 23 年 8 月に日本腹部救急医学会での発表内容も加えて添付したいと思います（付録その⑤，P183～184）。

すなわち、今回の報告書でも、両面から扱わしていただいたつもりです。

なお、本研究は、わが国・世界へのパンデミックの悪影響を減ずる目的の研究であり、地球レベルでの悪影響拡大・悪循環形成のリスクを危惧しております。それゆえ、そのような大きな視点からの要素を無視して進めるべきでないと考えております。

以上の観点から、本総括研究報告書としては、多面的に関連する研究成果を研究分担者も含めてお願いしたこととなりました。

最後に付録としていくつかつけました。目次を参照してください。

更に、総合研究報告書（平成 20 年度～ 22 年度）には、関連する問題として、若干本研究の主題からは外れますが、避けるべきでない考え方として、

①「地球レベルの悪循環のリスクをどうとらえるか」を東日本大震災を中心に提示した資料（「高圧ガス」に当方が、投稿したもの）。

②当方が、以前申請しておりましたが、却下された、「原子力災害医療対応をテーマとした原子力研究」の資料：これはヒアリングで、審査委員長から明確に「そんな、原子力（大）災害を取り扱う研究は考える必要ない」という趣旨の発言をされたものですが、いわゆる「安全神話」にもつながる課題です。

この資料等も、総合研究報告書の付録として添付するつもりであることを付記します。

なお、多くの研究協力者にもお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

パート I

研究主任者報告原口義座

研究主任者 原口義座

パート I-(1)

(1)総括研究報告書 新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究(20291101) 原口義座

別紙 3

研究報告書
厚生労働科学研究費補助金 (新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
総括研究報告書
新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究 (20291101)

研究主任者 原口 義座

研究要旨 新型インフルエンザパンデミックを想定し多職種・多分野の対応のあり方の洗い出しを目的とし、幅広い視点から多数の実動訓練と机上訓練総合訓練を行うことにより、問題を洗い出し、訓練のあり方を研究した。
その新しい試みを含む多くの知見が得られたが、特に東日本大震災での被災からみて本年冬季のパンデミックの発生も視野にいれて、トリアージを含めて、トリアージタグ(案)を作るなども行った。

研究分担者氏名・所属研究機関名職名 等

原口義座 国立病院機構災害医療センター	大日康史 国立感染症研究所感染症情報センター
川田諭一古河保健所 保健所長、	山本保博 東京臨海病院 院長
友保洋三 白鬚橋病院リハビリセンター長	角田隆文 都立荏原病院感染症科科长
星野正巳 至聖病院救急部部长	白井淳資 東京農工大学 農学部獣医学科教授
渡邊千之 元自衛隊中央病院院長	竹田 努 宇都宮大学
横田裕行 日本医科大学大学院	酒井基広 東京女子医科大学臨床工学部
陰下敏昭 陰下内科	津端 徹 京葉病院院長
加藤隆弘 江戸川病院副院長	星野恵美子 社会保険船橋中央病院副院長

A. 研究目的 新型インフルエンザを代表的疾患とするパンデミック対策、および関連するバイオテロ、更にNBC災害も視野に入れた医療対応として、各々の専門性と並行し全体を統合・総括する。このための技術的側面の解決に加え、総合的視点から指導できるシステムを確立することを目的とした。

B. 研究方法
実際の経験、資料収集、机上訓練、実動訓練による教育用基礎資料の作成へ向けて。

C. 研究結果
○基本的なデータ収集を行った。
○多面的な視点からの訓練、更にベースとなる基礎的な訓練としての活動。

○各種の多様性を加味した訓練用のシナリオの原版の作成へ向けての動画記録作成等

○ 訓練用シナリオを多面的に作成し、特に独居老人・災害弱者、企業内患者発生、ドライブスルー方式等も考慮した上で、実用性のあるインフルエンザパンデミック用のトリアージタグ等の作成を試みた(試案作成)。

D. 考察
以上の研究の結果、各分野別、特に職種面・一般企業における認識の向上へ向けての資料が作成段階となった。
パンデミック予防・感染防止・防護面にも有用な資料である。

<p>すなわち、課題解決も含めて、上記の研究結果をまとめた形で、記録集/印刷物と動画（訓練）記録として、作成した。</p> <p>今後を考えると、明らかとなった各々の課題への実対策が急務であるが、特に動画を含む記録上にその対策を提示しつつあり、広く情報伝達することが可能となれば、今後のパンデミックに対して、各施設ごとにより被害を軽減する方向への準備を進めることができるといえる。</p> <p>E. 結論</p> <p>新型インフルエンザパンデミック対策のみならず、関連するバイオテロ、NBC災害まで広げられる柔軟な応用力のある体制が必要である。</p> <p>そのために役立つと考えられる幾つもの改善点、方策が提案され、配布資料として、動画を含めて、作成した。</p> <p>更に、これまでに作成した多数の参考資料を有し、これらは、平成20年～22年の総合報告書に記載することとしている。</p>	<p>F. 健康危険情報</p> <p>G. 研究発表</p> <p>1. 論文発表</p> <p>①原口義座, 他:特集 新型インフルエンザパンデミックを経験して一課題とこれからの対策—(I) 序。 医学と薬学 2010;63(6):839-843</p> <p>②原口義座, 他:特集 新型インフルエンザパンデミックを経験して一課題とこれからの対策—(II) 新型インフルエンザパンデミックを振り返ってこれからの展望する。 医学と薬学 2010;64(1):42-48</p> <p>2. 学会発表</p> <p>H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)</p> <p>1. 特許取得</p> <p>2. 実用新案登録</p> <p>3. その他</p>
--	--

● 施行研究概要・経時的報告(逆順)

原口義座

経時的に主な活動結果を提示します。

新しい年月日から逆に日時をさかのぼって提示します。

主要なものは、太字・アンダーライン、直接強くは関連しない項目、研究期間(平成22年度)を外れる内容は、斜線で提示しました。

平成23年度

- 7月 福島原発事故拡大・東日本大震災～慢性期へ、感染症拡大危惧
 5月 放射線被ばくと医療を学ぶ会セミナー:東京,代表世話人:原口義座
 4月 福島原発事故拡大・東日本大震災～亜急性期～感染症拡大危惧感
 (現地での災害医療)

平成23年

- 3月19日(土)-22日(火) 茨城・福島方面医療援助(原口義座、友保洋三, 他)
 3月10(木)-12(金)六日町市・最終訓練・講習会(準備・まとめを含めて)
 11日(金)実践訓練施行(六日町市・複数個所で)・東北沖大地震・津波発生

平成22年

- 12月末 豪州、西オーストラリア州でのパンデミックへの現状視察
 12月17日(金) 実践訓練・研修:関西国際空港にて、機中等
 11月18日(木) WHO事務局長Margaret Chan(写真)
 日本来日,講演会(東京女子医科大学)
 11月11日(木) 実践訓練:京王鉄道教習所にて
 9月 パプアニューギニアにおける対策の視察・大使館
 8月23日(月) 実践首長会 東京
 8月2~3日(月・火) 研究班訓練打合せ 新潟県長岡市
 7月27日(火) 東成田駅・京成電鉄、成田国際空港駅等にて実践訓練施行
 5月21-23日(金-日) 首長連携交流会 東京
 5月16日(日) 集客機関・施設でのあり方の検討(Disney Land, 浦安市)



平成22年

- 1月26日(火) 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究発表会
 「新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究」国立感染症研究所
 1月22日(金)英国大使館でのバイオ災害セミナー

なお、これは、ごくごく限定した研究主任者にほぼ限定したのみの活動記録であり、各研究分担者は、別個にも活動をしていただいておりますので、ここには加えてないところも多々あります。

ご協力・ご指導をいただいた、全ての研究分担者の先生方に深謝いたします。

また危機管理機構の研究協力者、ノルメカエイシャ、KDDI、他の多くの企業の方々の協力にも御礼申し上げます。

パート I-(3)

原口義座

厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究発表会
 「新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究」発表
 (一部補足) 平成23年1月31日(月) 国立感染症研究所

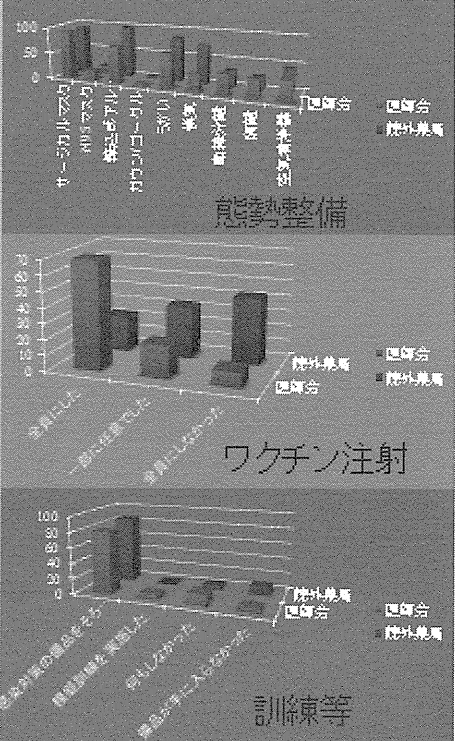
以下は、平成23年1月31日(月) 国立感染症研究所にて施行した厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究発表会「新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究」での発表資料に一部説明等補足したもの。平成22年度以前の活動内容も若干含まれている。

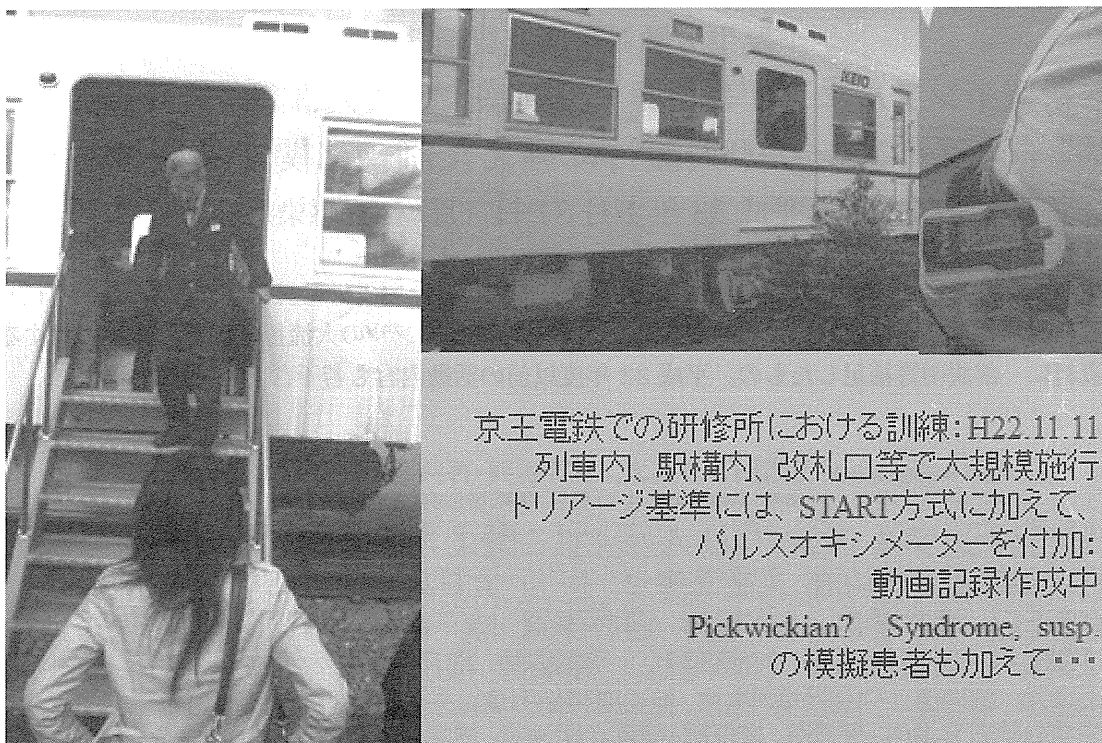
厚生労働科学研究費補助金 **新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究発表会**
 日時:平成23年1月31日(月) 場所:国立感染症研究所

「**新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究**」
 原口義座(国立病院機構 災害医療センター) 大日康史 友保洋三 角田隆文
 星野正巳 酒井基広 山本保博 白井淳資 陰下敏昭 竹田 努 渡邊千之
 川田諭一 星野恵美子 加藤隆弘 津端徹 横田裕行 各研究分担者、古閑比
 斗志先生、細坪信二・平吾かおり先生、他の研究協力者の先生方、厚生労働省、外務省、東京
 都を含む地方自治体、保健所、検疫所、企業の関係者、地域住民に深謝致します。



分担研究報告 新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究 (主任研究者:原口義座)
 分担研究項目:1)神戸地区に置けるNIH1 pdm流行から見た特徴の見直し
 2)内科医院に置ける市民への啓蒙のあり方の研究
 分担研究者名:陰下敏昭(陰下内科) 研究協力者:川田諭一(茨城県古河市保健所) 研究協力団体:神戸市灘区医師会 神戸市灘薬剤師会
 『神戸市灘区の新型インフルエンザに対する備えに関する実地医療施設の意識調査に対する研究』以下抜粋
 対象・回答率 神戸市灘区医師会 A会員 162名中 92名 (回収率 56.8%) 灘区院外薬局 灘区院外薬局 72名 42名 (回収率 58.3%)
 考察 予防注射のみでは完全な感染予防は困難。過剰な感染予防はなされておらず、必要性はなかった。
 ・ワクチン注射については、医師会員は67%で施行されているが、院外薬局では42.9%の施設で施行されていない。院外薬局は医療従事者のワクチン注射の対象に入れられなかったこと等の理由(輸入品に対する副作用への懸念)
 ・強毒性鳥インフルエンザのパンデミックの時などふまえて、院外薬局の職員も医療従事者としてワクチン注射を施行できるようにするべき。
 ・情報不足、物資の不足、行政とのネットワークの確立不足など指摘できる

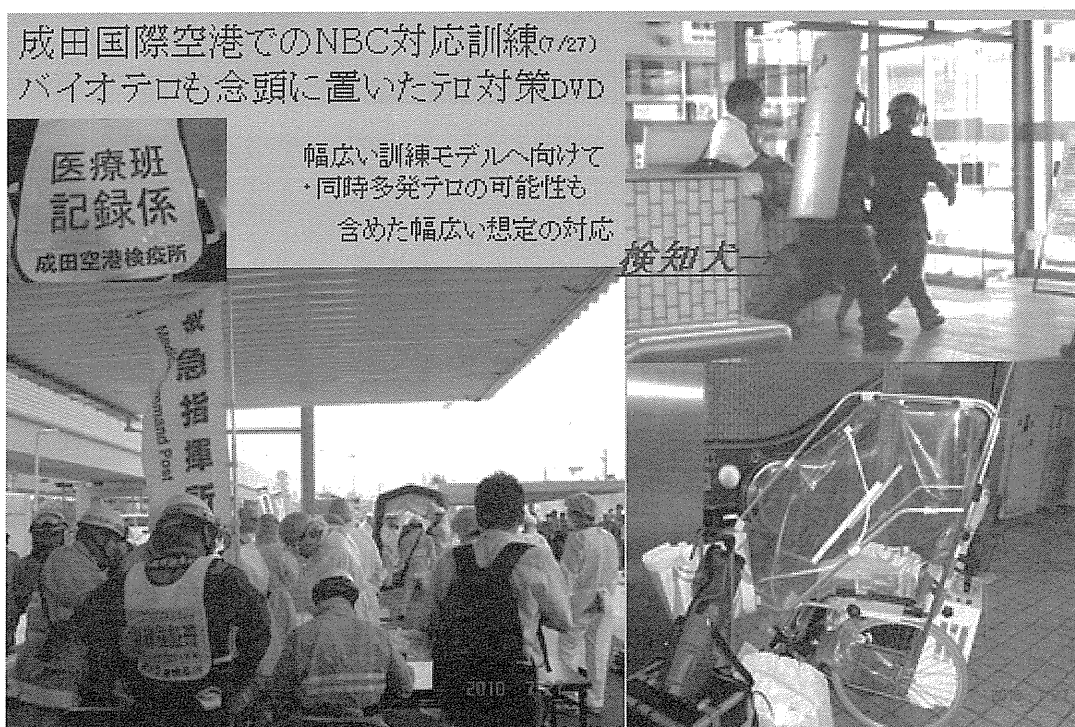




上記は、人口密集する場所の代表としての「列車内等の交通機関」での訓練である。動画記録を作成した。

下記は、成田空港での訓練風景である。

テロを基本想定として、幅広くNBC災害への対応準備、その中の代表として、感染症・バイオテロはあげられるが、多面的な訓練の必要性から研究項目として重視している。動画記録あり。(P.181～184も参照)



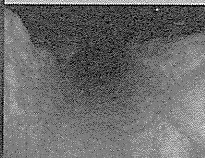


他の基礎的訓練、研究、今後 の予定：一部だけの提示、報告書に記載予定

- ・星野恵美子先生：手洗いチェッカー器による手洗い力(信頼度)向上
 スタンド式手洗いチェッカー器BLB(Saraya)を用いた洗い残しのチェック訓練 (P.151～177も参照)
- ・**今後：特殊環境(雪中)想定** 危機管理機構(委託事業)との大規模訓練・共同開催予定
 病院をモデルにパンデミック時の患者対応及び事業継続対応訓練
 訓練の目的 (1)院内/企業内での感染拡大防止策の検討
 (2)医療行為・病院業務/企業の日常業務の軽減策の検討
 (3)パンデミック時の事業継続戦略の検証

◆2011年3月11日(金曜) 第I部 図上訓練10:00～12:00 第II部 実働訓練13:30～17:00
 ◆場所 南魚沼市民会館 多目的ホール(新潟県南魚沼市六日町865番地)及び
 一般財団法人 **新潟県立総合医療センター 六日町事務所** (いどう小児科クリニック跡)

- ◆対象 医師 看護師 事務員 強毒インフルエンザ疑い患者/家族 企業・病院
- ◆訓練の項目 観察・処置・事業継続
- ◆訓練での検証ポイント 応急処置、感染拡大防止、事業継続戦略、連携確認
- ◆訓練の方法 実働訓練及び図上訓練
- ◆設定状況・時間帯 国内発生・感染まん延期・診察時・通院時
- ◆訓練の想定 新型インフルエンザ(H5N1→強毒型も発生)
 まん延期に、病院をモデルに、殺到する発症者、疑い患者の感染拡大防止を実施しながら事業を継続する方法を
 通院した人々及び医師・看護師が対応をする
 同様に、企業内においても想定して検討する

(P.21～28も参照)

上記は、特殊環境として、雪中での訓練(3月11日、大震災発生日のもので発表時点では、まだ施行前)。動画記録を作成した。後述する。


下記は、前年度以前の訓練風景である。
 動画記録あり。

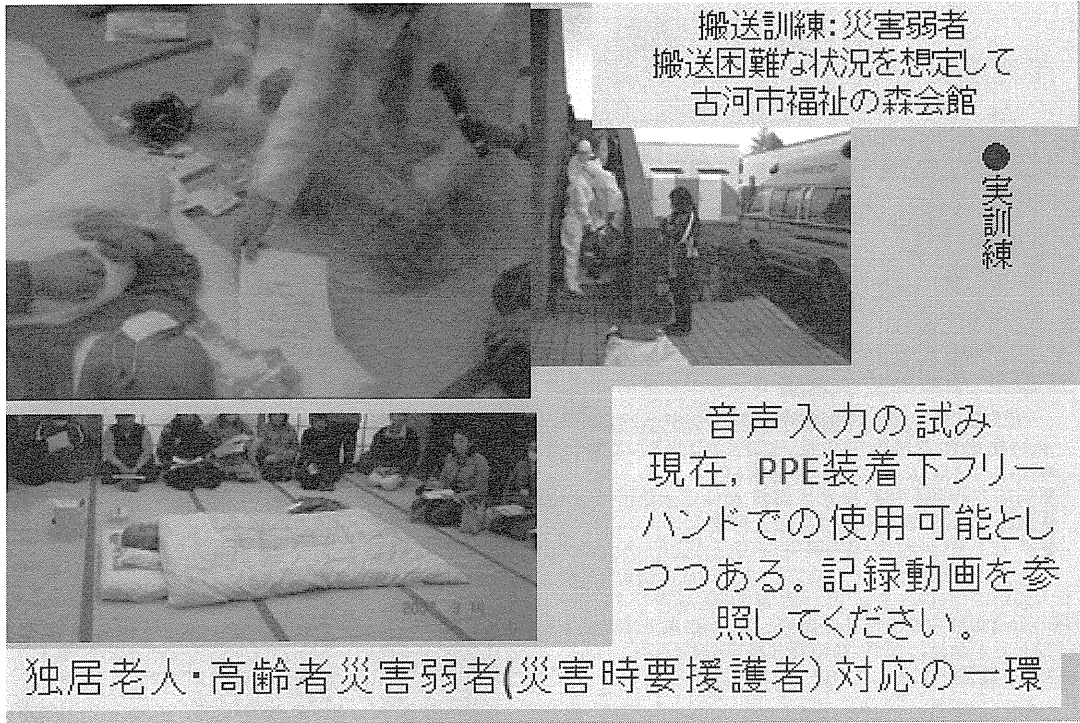


発表予定 **②part II**
平成20年度～22
年度の活動概要

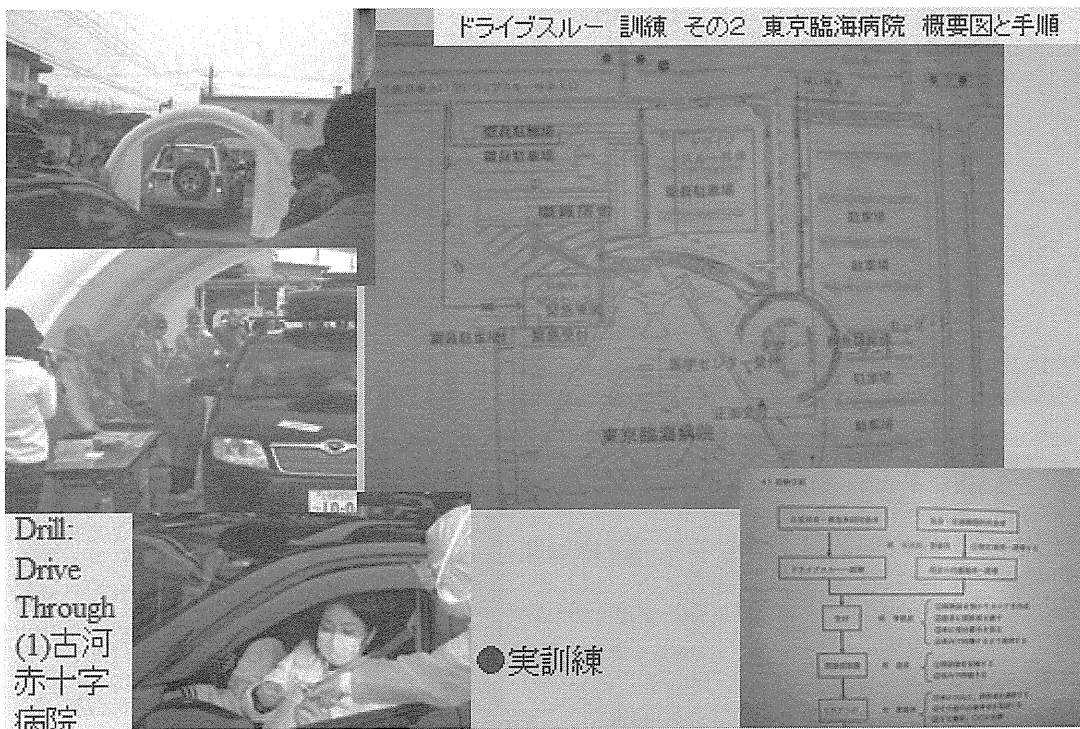
研究班として活動項目

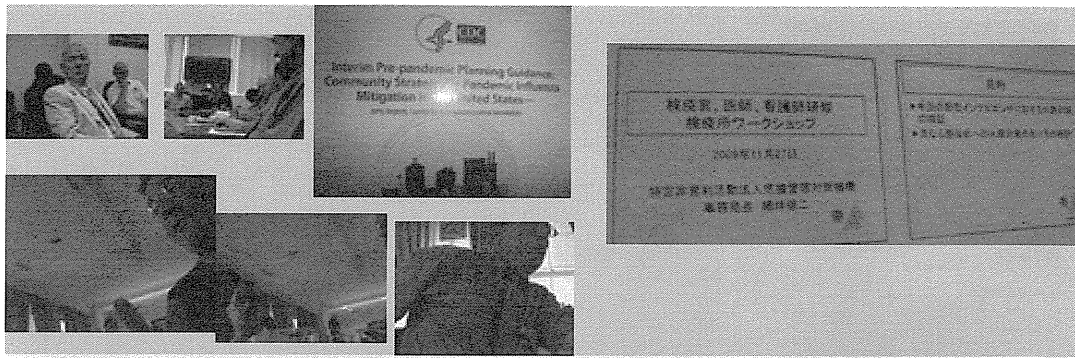
- **実訓練** ・医療施設対応・災害弱者対応・ドライブスルー・搬送
- **視察関係** ・各地の視察：外国、日本・大使館/領事館対応 ・鳥インフルエンザ対策等の経験
- **実活動記録** ・神戸・千葉県医療施設・空港検疫所活動
- **記録・てびき・研修関係** ・てびき・東京商工会議所・報告書・研修会・机上シミュレーション等
- **考察とまとめ** 最後は **ウーソ** 記念





上下とも、前年度以前の訓練風景である。前年度の報告書(と 総合研究書)参考のこと。 動画記録あり。






上:米国アトランタでの意見交換(共に平成19年9月)
 下:米国ニューヨーク総領事館(左)と 東京海上記念病院での意見交換(右)



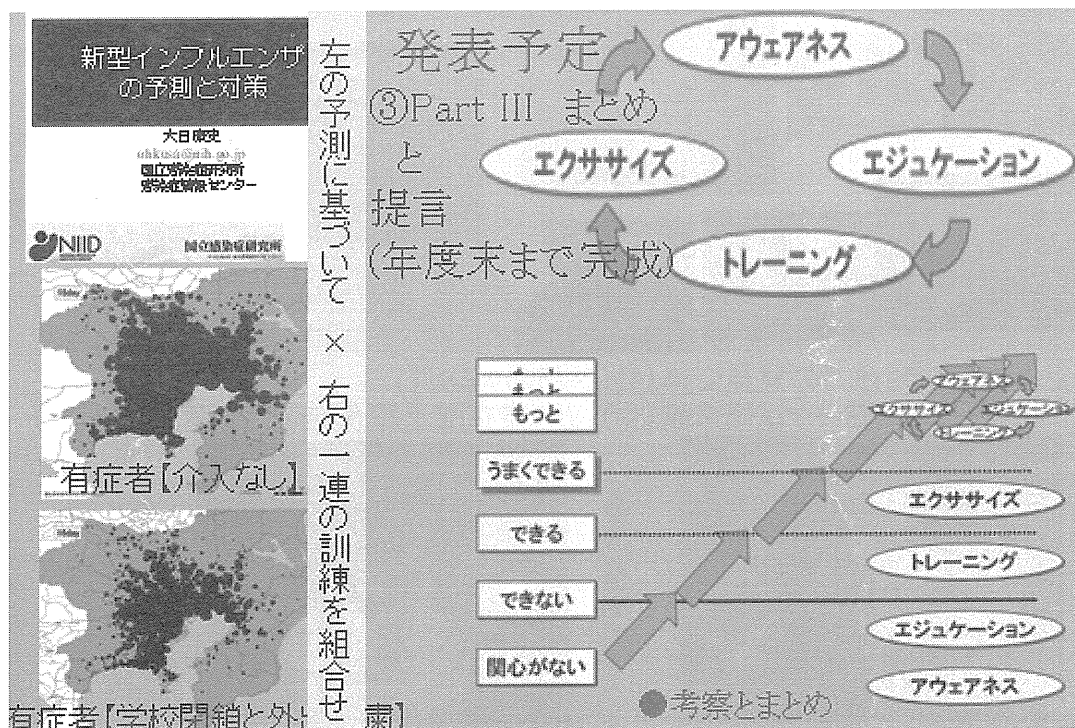
前年度以前の訓練風景等である。
 動画記録等も参照のこと。

手指衛生の実技訓練
 手指消毒
 個人防護具
 PPE
 の着脱訓練
 「医院・診療所における対応訓練の手引き」
 ～新型インフルエンザ
 (A/H1N1)感染症・蔓延期
 への備え～
 (暫定版)平成21年10月
 編集責任者 川田諭一

<http://h-crisis.niph.go.jp/hcrisis/DownloadServlet?fileid=4003>

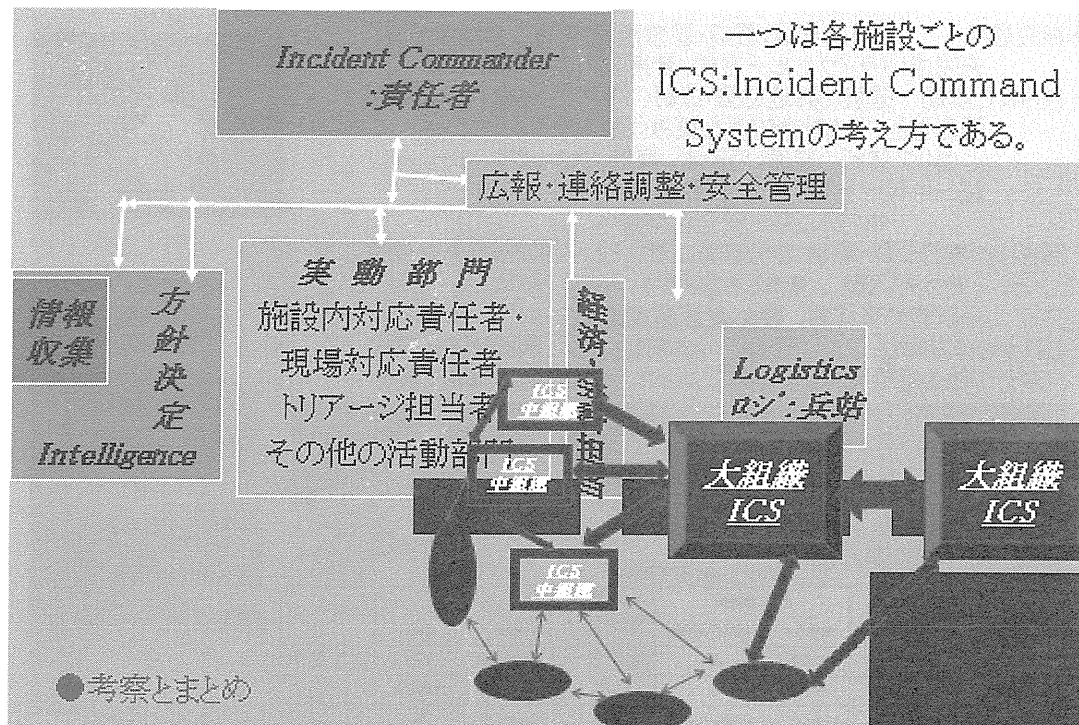


●実活動記録 左:無菌室での対応
 情報交換等習熟する必要がある
 実際の現場対応からみて
 実際の経験:帰納法中心の組立て(実働
 + 訓練データの集積)
 想定によるシミュレーション:演繹法中心
 での組立て
 この両面からの研究によるレベルアップ



前年度以前の記録、および基本的な考え方として、従来より、重視している内容を含む。





、同じく前年度以前の記録および基本的な考え方として、従来より、重視している内容を含む。

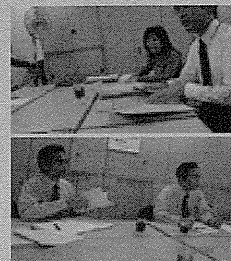


同じく前年度以前の記録および基本的な考え方として、従来より、重視している内容を含む。

- ・研究成果 手引き作成: 医院・診療所 東京商工会議所の資料
 未完成: ドライブスルー方式、音声入力、企業間連携
- ・残された課題 過度の封込態勢・体制(?)としての批判への取組
 弱毒性としての社会的気の緩み・油断
 心のケア体制の整備: 感染者、家族、スタッフ
 軽～中等～重症(+災害弱者)多発対応の連携
 ⇨ 安心感+安全性増強へ
- ・残された専門分野・職種 各分野毎に更なるレベルアップの必要性
 (その洗い出し、見直しも含めて)
 系統的教育体制、**特に教育施設対応**
- ・これからの方向性 強毒性発生前に更に強固な体制整備
 ⇨ その他の感染症パンデミック、バイオテロ、国民保護法も含め



平成17年11月29日
 新型インフルエンザ
 に関する小検討会



患者集中への対応 感染防止

種別	病院		医院・診療所		薬局 連携院外	地域ケア		地域住民
	感染対策	入浴管理	感染対策	感染対策		施設	検査	
院内	済み	(継続中)	(継続中)	急ぐ	次年度予 定	(継続中)	済み	次年度予 定
院外	実施中	(継続中)	(継続中)	急ぐ	定	(継続中)	実施可能	定

まとめ

① 基本的考え方これまでの活動で幅広く集積できた。

1. 気づき→教育→トレーニング→エクササイズ
2. 体制・態勢 : インシデント コマンド システム
3. 横方向 の連携 × 縦方向レベル体制向上 → 1. に戻る

② 今後・将来に備えた最終段階として

1. 弱毒パンデミックの再燃(風評被害・デマを含め)対応→
2. 強毒発生、パンデミック想定(同上)対応→
3. 他原因・病原体による新興再興感染症想定(ハイチ・コレラ等)
4. 環境問題・テロ等の周辺要素加味→訓練モデルの多様化

③ 配布用資料として: 医療/教育施設・一般企業・住民等

1. 病態別を想定した訓練モデルの多様化
 2. 多・他職種を含めた(巻き込んだ)訓練モデルとその普及
3. 欠落した部分の無い(少ない)資料、動画による訓練報告等を重視
 ここまでを含めて多くは動画で残してあります。DVDを参照してください。

厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究費
 発表会 日時: 平成23年1月31日(月) No.23 15:00 協賛: 国立感染症研究所

「新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究」

原口義座(国立病院機構 災害医療センター)
 大日康史 友保洋三 角田隆文 星野正巳 酒井基広 山本保博
 白井淳資 渡邊千之 川田諭一 星野恵美子 加藤隆弘 津端
 徹 横田裕行 陰下敏昭 竹田 努 各研究分担者、古関比斗志
 先生、細坪信二・平香かおり先生、他の研究協力者の先生方、厚
 生労働省、外務省、東京都を含む地方自治体、保健所、検査所、
 企業の関係者、地域住民に感謝致します。

研究班として活動項目

- 実訓練 ・医療施設対応・災害弱者対応・ドライブスルー・
 搬送・国際空港での対応・集客施設での対応(鉄道駅等)
- 視察関係 ・各地の視察: 外国、日本・大使館/領事館対応
 ・鳥インフルエンザ対策等の経験
- 実活動記録・神戸・千葉県医療施設・空港検疫所活動
- 記録・てびき・研修関係 ・てびき・東京商工会議所・報告
 書・研修会・机上シミュレーション等
- 考察とまとめ 最後は「ウーイーン」を聴く

発表概要

- ①第一部: 1/3
 平成22年度活動報告
 概要(年度末までの活動
 予定含む)
- ②第二部: 2/3
 平成20年度～22年度の
 活動概要
- ③第三部: 3/3
 まとめと提言概要(年度
 末まで完成)

パートⅠ-(4)

「医院をモデルにパンデミック時の患者対応及び事業継続対応訓練」

原口 義座、細坪 信二

以下は、平成23年3月11日に施行した「医院をモデルにパンデミック時の患者対応及び事業継続対応訓練」のパンフレットを含めた概要である。実践した具体的内容は、動画を参照してください。

医院をモデルにパンデミック時の患者対応及び事業継続対応訓練

(厚生労働科学研究事業 新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究の一環)

◆訓練の目的

- (1) 医院内/企業内での感染拡大防止策の検討
- (2) 医療行為・医院業務/企業の日常業務の軽減策の検討
- (3) パンデミック時の事業継続戦略の検証

◆日時

2011年3月11日 10:00～17:00 一部 図上訓練 10:00～12:00
二部 実働訓練 13:30～17:00

◆場所



南魚沼市民会館 多目的ホール(新潟県南魚沼市六日町865番地)



一般財団法人危機管理教育&演習センター 六日町事務所(いとう小児科クリニック跡)

◆対象

医師
看護師
事務員
疑い患者
家族
企業・医院

◆訓練の項目

観察・処置・事業継続

◆訓練での検証するポイント

適切な応急処置、感染拡大防止、事業継続戦略、連携の確認

◆訓練の方法

実働訓練及び図上訓練

◆設定状況・時間帯

国内発生・感染まん延期・診察時・通院時

◆訓練の想定

新型インフルエンザ（H5N1）まん延期に、医院をモデルに、殺到する発症者、疑い患者の感染拡大防止を実施しながら事業を継続する方法を、通院した人々及び医師・看護師が対応をする。同様に、企業内においても想定して検討する。

◆訓練の内容・スケジュール

09:00～10:00

(1)訓練準備

(2)一般参加者 南魚沼市民会館 多目的ホール 09:45 集合

10:00～10:30

オリエンテーション

(1)挨拶

(2)訓練内容の説明

10:30～12:00

図上訓練の開始

(1)院内/企業内での感染拡大防止策の検討

(2)医療行為・医院業務/企業の日常業務の軽減策の検討

(3)パンデミック時の事業継続戦略の検証

13:30～15:30

実働訓練の開始

・診察

・ドライブスルー診察対応

・インターネットによる問い合わせ・問診

・業務・サービスの絞り込みによるシフト性による運営

・人的・物的応援

15:30～16:30

訓練反省会

16:30

訓練終了・撤収

(1) 院内/企業内での感染拡大防止策の検討

図上訓練

- ・ 院内で感染拡大する可能性の高い場面の洗い出しと確認 ⇒ 企業内
- ・ 院内での感染拡大防止策の洗い出しと確認 ⇒ 企業内
- ・ 電車・自家用車・タクシー利用時の感染拡大防止策の洗い出しと確認 ⇒ 通勤時
- ・ 医院から帰宅後の感染拡大防止策の洗い出しと確認 ⇒ 企業内

実働訓練

- ・ ドライブスルー診察
- ・ 待合時の感染拡大防止策の対処

(2) 医療行為・ 医院業務/企業の日常業務の軽減策の検討

図上訓練

- ・ 医療行為・ 医院業務の付加のかかる要素の洗い出しと確認 ⇒ 企業内
- ・ 医療行為・ 医院業務の軽減策の洗い出しと確認

(3) パンデミック時の事業継続戦略の検証

図上訓練

- ・ パンデミック時の事業継続を阻害する要因の洗い出しと確認 ⇒ 企業内
- ・ パンデミック時の事業継続戦略 ⇒ 企業内
- ・ 資源調達の検討

実働訓練

- ・ インターネットによる問い合わせ・ 問診
- ・ 業務・ サービスの絞り込みにより勤務体系・ シフト性の確保
- ・ 外部の医師・ 看護師の応援
- ・ 資源の応援